

九州新幹線（西九州ルート）の開業のあり方に係る合意

平成 28 年 3 月 29 日

- 1 武雄温泉～長崎間の施設が完成する平成 34 年度に、当該区間にフル規格車両を投入し、博多～武雄温泉間を走行する在来線特急と武雄温泉駅で乗り換えを行うことにより開業する。また、その際の乗換利便性の確保のために、対面乗換方式を前提に武雄温泉駅を整備することとし、速やかに着手する。

なお、平成 34 年度に、技術開発の進捗により本線区へフリーゲージトレインの先行車（以下「先行車」という。）を導入する場合には、先行車を博多～武雄温泉間を在来線、武雄温泉～長崎間を新幹線で走らせることにより活用する。

- 2 対面乗換方式とするために必要となる施設（約 70 億円）については、整備新幹線スキームで整備する。ただし、武雄温泉駅舎にかかる追加施設（約 24 億円）及び大村車両基地等にかかる追加施設（約 46 億円）は、いずれも共通経費として取り扱う。

また、長崎本線肥前山口～諫早間の上下分離時点において、三者基本合意（平成 19 年 12 月）に定められた譲渡価格にかかわらず、JR九州は、佐賀県及び長崎県に鉄道施設を無償で譲渡する。

3 長崎本線肥前山口～諫早間の取扱いについては、J R九州は経営分離せず平成34年度の開業時点で上下分離し、三者基本合意が定めるところにかかわらず、J R九州は、当該開業時点から3年間は一定水準（※）の列車運行のサービスレベルを維持するとともに、当該開業後、23年間運行を維持する。

（※）特急列車：博多～肥前鹿島間について、開業時点の需要動向を踏まえ、上下14本程度

普通列車：現行水準維持

4 新鳥栖アプローチ及び武雄温泉アプローチは、秋頃を目途に開催される技術評価委員会の結果を待って、整備に着手する。新鳥栖アプローチはフリーゲージトレインの量産車（以下「量産車」という。）導入時に、武雄温泉アプローチは先行車導入時に、それぞれ使用可能となるよう整備する。

5 肥前山口～武雄温泉間の複線化工事は、全線について整備新幹線スキームで整備を行うが、工事は段階的に実施する。（対面乗換方式による平成34年度の開業時までには、同区間を走行する特急列車及び普通列車の利便性を確保するために必要な区間（大町～高橋間）の複線化を行い、その後順次、全線複線化を実施する。）

与党整備新幹線建設推進プロジェクトチーム
九州新幹線（西九州ルート）検討委員会 委員長

山本幸三

佐賀県知事

山口禎茂

長崎県知事

中村法道

九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長

青柳俊彦

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 理事長

北村隆志

国土交通省鉄道局長

藤田耕三